部　　歌

古林先生作詞

一、まや六甲に抱かれて
ここ六甲台の水清し
ちぬの浦和をみおろして
シブキをあげる健男児

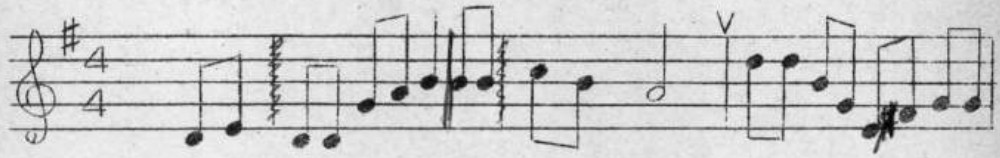
二、フリー　ブレスト　バタフライ
バツク　リレー　ポロまでも
凌泳健児の意気高し
いざや競わん腕を撫し

三、ああなつかしの水泳部
六甲台のプール辺に
月見の宴で泳ぎやめ
くる夏まつていきりたつ

S37

水泳部歌

作詞　古林喜楽
作曲　新10山田貴彦（昭37E）



1. まや　六一甲一にいだかれて　ここむこがおかの
2. フリ　ーブレストバタフライ　バックーリレーー
3. ああ　なつかしのすいえいぶ　ろつこうだいのー

みずき　よし　ちぬのうら　わを　みおろして　しぶき　しぶき　あー
ポロま　でも　りようえいけんじの　いきたかしい　ざ　いざや　きそ
プール　べに　つきみのえんで　およぎやめくるな　くるな　まー

げ　る　け　ん　んだ　ん　じ
わ　ん　う　で　を　ー　ぶ　し
ーっ　て　い　き　ゆ　た　っ

水泳はなぜ健康によいか

喜楽山人

子供のころ明石の海岸近くに育つたので、夏になると朝から晩まで一日中海につかつていた。七月と八月中は陸上生活と海中生活とがほぼ半々であつた。母が海岸へ私をさがしに来た時、大勢の子供の中で色の一番黒いのを探したらよかつたというのであるから、親戚へ遊びに行つて夕方になると、白い歯だけが見えるといつて、黒んぼ扱いにされたのも無理がない。午前中はもぐつてをついたり、あぶらめをつきさして夕膳の魚に供するので、わが家では八月中は魚を買う必要がなかつたという。午後は水練学校で鍛えられる。昼はふんどしのまま縁側に腰かけて、寸暇を惜しんでめしをかきこんでは海へとんで行くのであるから、全く文字通り海の子であつた。蛸捕りなんかに至つては、海中にもぐつて、岩底の穴に蛸の足のはみでているのを見つけるや、息が切れそうになつても海水を二、三杯呑みこんで突きさしたものである。昼食の直後に、水練学校で一時間以上も泳がされると、食後のためはき気を催すこともあつた。苦しいので船につかまろうとすると、先生が船中に立ち上つて竹の棒を振りかざす。こわいので泳ぎながら昼めしをはきだし、海水で口をすすぎ、二、三杯からい塩水をのみこんでは、何くそとばかりに泳ぎつづけたものである。だから小学校卒業のころには、三里半の遠泳にもパスし数々の水芸も仕込んでもらつて、師範級になつていた。両手両脚をひもで堅くしばられて、跳び込み台の上から海中にほうりこまれ、岸まで泳ぎつくようなことや、立ち泳ぎで扇子に字を書いたり、額に扇子をしばりつけ、足に又扇子をはさんで、扇子をぬらさないでグルグル回転し、ひつくり返つて腹ばいの格好で又グルグル回転して扇子に水一滴かけないというような放れ業も楽々とやつてのけたものである。そんなことをやつたためか、背の低いわりに私は胸囲だけは人一倍大きかつた。

ついこの間まで学長の激務に六年間、かぜ一つひかずにつとめられたのも、子供のころのこのような鍛練が、今ごろになるまで物を言つているのではなかろうかと思つている。

ところでこの頃つくづく感じていることは、水泳が健康によいというのは、単に全身運動であるとか、皮膚を丈夫にするとかいうことだけではないということである。それならそのほかに何があるか。一つは目や鼻を塩水にひたして、それらの粘膜をきたえている。人間がふだん粘膜を外界に露出しているのは、目と鼻と咽喉だけである。風邪の予防にうがいがつきものであるが、目と鼻の粘膜のことがぬけている。目薬をさすと風邪の予防にも治療にもなるという説があるが、ヴイールスは粘膜をおかすのであるからこれにも一理あろう。海水浴は正に目も鼻も咽喉も、すべて

の粘膜を強靱にするのである。

オ二には酸素とオゾンとを存分に満喫して心臓を強くする。この頃心臓病にゴルフがよく利くという説があるが、これなども青々とした芝生の上で、存分に酸素とオゾンを吸つていることも一つの原因であろう。

オ三にあげたいのは、金冷法とかいう健康法がこの頃全国に流行しているらしいが、男の急所を、入浴中あたためては水で冷やして玉を鍛えるのである。成程この急所は俗に、玉といえども光なく、金といえども輝かず、蔭におれども色黒くといわれるごとく、年がら年中密封されて蒸されどうしである。だから時折り冷やして刺戟を与えれば、何分男性の急所のことであるから、達者になるのであろう。ところで海水浴たるやこの自然の理を、楽しみながら無意識のうちにかなえさしてくれるのである。その上全身運動とくるし、日光浴にかけて加えて、塩水で皮膚を強靱にしてくれるのであるからこれほど結構づくめのスポーツはあるまい。初夏ともなれば、ぼちぼちパンツを鞄の中にしのばせて、水中にとび込む用意をせずばなるまいと思えば、この年になつても生甲斐を感ずるし、ファイトも湧いてくるのである。

南紀釣行

学1　山田常雄

釣の聖書と言はれてゐる「コンプリート、アングラー」の著者アイザック・ウオルトンは齢五十になつたとき、それまで営んでゐた金物商を罷め、相当の産を残し引退して余生を著作と三昧に送り、九十の天寿を全うしたと伝へられてゐる。私も予々こういふ身分になりたいものだと思つてゐたが、さて齢五十を過ぎた今日、相当な産どころか釣に行くひまさへ中々思ふに任せぬ状態である。そこで激務の中から寸暇をぬすみ竿をかついで幽寂の山峡に、或ひは紺碧の荒磯に出かけては鬱を晴らしてゐる次第である。釣はひとり旅に越したことはないが磯釣は危険が伴ふのと、大物がかゝつた場合一人では上げられないので三人以上で行くことにしてゐる。以下は紀州の大島へ遠征したときの記録である。

十二月三日

夜十一時前に天王寺駅を出る夜行列車は翌朝四時前に串本駅に着く。いつもこの列車は団体の行楽客で満員である。私は慚く空席を一つ見付けて、ここで落合ふT君を待つてゐた。同君は餌の生エビを引受けてゐた。どの旅行の計画でも期待と不安はつきまとうが特に釣の場合は餌の入手と当日の天候とに不安がある。近頃は釣人が増えたのと生エビの繁殖が減つたのとで予定の日時に

間に合はぬ事が多い。幸いこのときは天候はまづ上々と言へたが残るところは一番肝腎の餌だけだつた。

とうとう発車迄T君は姿を現はさず不安のまゝ汽車は出てしまつた。さうなると和歌山から来る筈のS君が頼りである。同君は生カニを引受けてゐた。

東和歌山駅でも大変な混雑で、S君の姿を見付ける事は出来なかつた。益々不安は高まつて来たが、下津、箕島、浅湯と乗客が大分減つて通路が空いて来た午前一時頃、ポンと私の肩をたゝく者があるので見るとT君がニコニコ笑つて横に立つてゐた。大阪では生エビの入荷が間に合はず和歌山へ先に来て五合だけ手に入れた。S君もカニを二百持つて乗つてゐると言つた。

十二月四日

午前三時四十五分定刻に串本駅に着いた。駅前には船頭のおやぢが迎へに来てゐた。大阪では少々北西の寒風が冷たかつたが汽車を降りるとムツとする程暖かかつた。雨気かと思つて空を仰ぐと冬の星が奇麗に輝いてゐた。たしかに五度乃至七度は違ふやうだ。

桟橋迄おやぢがリヤカーで荷物を運んでくれる。何しろ一貫五百匁はある氷入りの餌箱が三つ、二貫目はあるリツクサツク三個と、竿だ。丈も大物竿は船頭の家に預けてあるから直接船に運んでゐる筈だ。

桟橋から約三十人宛位を発動機船に乗せて各自目的の島へ運ぶのである。帆柱の上にヘツドライトをつけて暗闇の中を進む。湾内は浪一つなかつたが、湾を出るとさすがは大平洋だ。所々白浪が見え、船は急に大きく揺れ出した。島は魔物のやうに浪の中にポツカリ浮んでいる。その一つ一つに舟をつけて、二人、三人と釣人を降して行く。私達はオトジマに上つた。時計を見ると五時だ。まだ明ける迄二時間もある。沖にはイカ釣り舟が光々と灯りをつけて一列に並んでゐる。夜が明けると忙しいので今の中に朝食をすませて置く。リツクからサントリーを出して廻す。二、三回往復してゐる中に空になる、無理もない師走の朝だ。

東が少し白んで来た頃、大物竿にカニを一匹丸刺しにしてほり込む。寸二針にワイヤーをつけ、道糸は六分のナイロンだ。しかしまだ餌付きはしない。気休めだ。やがて東の空がグングン明かるくなつて水平線上の一点の海がふくれ上るやうに真赤な太陽がキラリと顔を出した。暫しこの荘厳な光景に打たれ、辺りを見渡すと、底知れぬ紺碧の海の中に、無人の岩山があたり一面に突立つてゐる。しかし景色に見とれている閑はない。早速中物竿に生エビをつけ二寸辺りの海中に投げ込む。直ちにガクンガクンと当りがある。最初に引き上げたのは二百匁のグレだ。T君やS君の竿にも来ている。

この日の釣果はグレ（メジナ）ハゲ（カツハギ）チヌ、メンドリ、イガミ等の中小物が主で、大物としてはT君の上げた一貫六

百のインダイ一尾だけだつた、その夜は串本の宿で、大皿に山と盛つた刺身を肴に三人でビールの満を引いた。

選手勧誘の旅

学4　桑川義男

旅にはそれぞれなにがしかの思い出があるし、殊に私のような稼業（新聞記者）のものともなれば単に旅行について思い出だけでなく、仕事に絡んだ悲喜こもごもの思い出が書きたいのだが、今、こうして「凌泳」への原稿ということになると、やはり野村君（昭・11、現在兼松ロンドン支店長）との選手勧誘の弥次喜多旅行が一番懐かしく思い出されてくる。

昭和九年といえばかれこれ三十年近くも前のことになるので細い点はさだかではないが、部分々々は今でも、まるで昨日のことのようにくつきりと思い出される。

シーズンも終り、前期の試験も終つていたから多分秋も相当深かつた頃とは思うのだが、それが十月だつたか、十一月だつたかははつきりしない。とにかく言い出しべえは野村君で、喪くなつた大谷先輩やその他から軍資金をあおぎ神戸をあとにしたのは晩秋の、夜などは少々肌寒い頃であつた。

呑気な二人はろくろく汽車の時間も調べなかつたので宇野に着いても連絡船はなく、あと二時間も待たねばならぬということであつた。さつそく飛び込んだのが波止場にあつた薄暗い飲み屋、ポチャポチャと波止場に打ち寄せる波の音を聞きながら飲んだ地酒の味は、なんともわびしく、そのまずさだけは未だに舌の先端に残つている。

漸くつかまえた連絡船の上で、はしなくも高松高商の入江君？に会つた。関西では当時かなり速い自由型の選手だつたように思う。野村君がさつそく勧誘をはじめたが、神戸商大などはとてもとてもという。野村君が俺でもはいれたんだから、とにかく受けるだけは受けてくれ、とかなんとか言つている間に船は高松についた。

受験の方はともかくも、酒の方では意気投合した三人は、あるいはも一人ふえて四人だつたかもしれないが、とにかく高松の夜を楽しむことになつた。大きな提灯のかゝつた飲み屋で盛んにメートルをあげた記憶がある。名前はもちろん忘れた。ついで波止場近くの青線だつたか赤線だつたかに波の音を聞きながら「悪くねえなあ」とかなんとか言いながら一夜をあかしたものである。その時女が居たかどうかははつきりしない。とにかく翌朝は早々に高松を発つて松山へ、雨上りの馬場先のようなところをお城を仰ぎながら瀬石かなにかのことを話し合いながら松山高校の某君（名前は忘れた）宅を訪ねたが駄目、ついで松山商高の誰かを訪

ねたがこれは会えずじまい。行きしなに六高の某君を訪ねたが、この君もついにはいってこずじまい、ということで結果的には野村君と私の選手勧誘の旅は戦果ゼロということに終り、多額の寄付をあおいだ先輩諸氏にはまことに申し訳ないことになってしまったが、当時としてはかなり真剣な旅だっただけに失敗のホロにがさと共に今にいたるまでその思い出は消えないでいる。

近頃仕事でちよくちよくこの方面へ出かけることがあるが、すっかり変わってしまった現地の姿も思い出の中だけはいつも昔の姿にしてよみがえらせてくれるのである。

旅

学5　野村　弘

水泳部からの葉書が遠くロンドン迄回送されて来たので、一応責任を果さねばと筆をとった。

学校を卒業してから二十六年、其間海外生活十一年になるので旅から旅への連続と言ってもよい程で、人にどこの国を訪問されましたか、と問われると行かない国を言った方が良い位であるのですが、さて旅の事を書けと言われるとはたと困ってしまうのである。

最初の海外旅行の時は貨物船で濠州のシドニーに二十日かかって到着した時はずい分遠い所に来たものと思ったが、戦後カラチにプロペラ機で三十時間近くかかって行った時は九州に行った感じだったが今度のロンドンへの北極回りの十八時間のジェット機では更に近い感じでした。今後更に進歩すると旅行もあじけなくなるのではないかと思います。

さて一番スローな旅行の事を始めましよう。時は一九五一年当時私はパキスタン国のカラチの出張所勤務でしたが取引先のマリック氏、ハック氏と藤沢製薬の山岸博士と四人でサントニンの原草エフェドラの調査の為にパキスタン奥地のカラット王国を訪問する事となった。

パキスタンの奥地への汽車旅行は大変な仕度が必要で大きなフトン袋に寝具一式を入れ、途中用としての水を大ビンに入れ又途中の食事や小生にとっては必需品のウイスキーを持って乗り込まねばならないので四人共なればトラック一台分位の荷物となる。汽車にて丸一日バルチスタン州の首都クエッタに到着した頃には途中の砂漠の砂で砂だらけになりついに山岸博士は悲鳴をあげる有様、だが本当の旅行はこれからでクエッタからカラット王国のカラット迄は自動車で一日の旅となる。この辺になると同じパキスタンでも風物が全然異ってきて岩又岩の荒地で雨でも降ると道が変る様な道をやつとの思いでカラットに到着。ここから我々は

カラットの王様の賓客となる訳で迎賓館と言ってもうすぎたない家に迎えられた。翌日は王様が面会されるとの事、山の上にある王様の別荘に行く事となつた。当日になつて驚いた事には王様差回しのジープと共にラクダに乗つた儀仗隊が来た事で何だかオトギの国に来た感じであつたが、こんなに歓迎されるとは夢思わなかつた。王様は思つたより若くよく肥つた人で我々が日本人としてカラット王国への最初の訪問者である事をのべ、大いに歓迎するからカラット国の開発に協力してほしいとの御話で我々大いに面目をほどこした次才。王様は盛大な午餐会を開いて小羊の丸焼きを自ら刀で切つて餐応して日本の話につきなかつた。私としては小なりと言へども王様と対等に御話できたのは之が始めてで又終りだと思うと其時の事が今でも目に浮ぶ訳である。王様は仲々のガッチリ屋で吾々の計画を聞き秩の半分でも持つてよいとの御意向でしたが幸か不幸か私達の計画は成立せず王様との縁はそれで終つた訳です。

同行したハック氏は数年前の軍のクーデターの際政府派の要人として睨まれ現在カンゴクにあり、ヤリック氏は其後カラチの市長をつとめ近々ロンドンに遊びに来るとの事、山岸博士は大阪にて活躍、小生はロンドンと十年後にはバラバラになつたが何日の日か四人が集り当時の事をしのびたいと考えているが之は一寸無理な様です。

以上乱筆にて申訳ないが御判読適当に修して下さい。ウイスキーでも飲んで話すと面白いのですがペンをとるとさつぱり面白くも何もなくなりすみません。

末筆ながら水泳部員一同の本年の御活躍を祈つております。

旅三題

一、海の巻　　学02　鈴木富夫

これは旅というには一寸感じが違うかも知れないが強いて云えば旅ともいえるでしよう。昭和二十七年の秋、中栄丸と云う中型の貨物船に乗り広島からカナダのヴアンクーバー及びその近辺のパルプ積地を廻り、シヤトルで一週間程ドックに入り、パルプ及び杉丸太を満載して帰つた時のことが想い出される。

もともと船そのものには戦中戦後を通じて種々の型のものに乗つたし、太平洋の航海も経験したが、五年振りに乗つた船は又格別の味であつた。往路乗つてから一週間ぐらいは電話のベルを聞かぬ所で本当に何もかも忘れて眠りこけていた。少々眠りあきた頃に船は北太平洋、アリューシヤンの南を航海していたが鯨が出て来たりイルカと競争したりで終日船橋にいても飽きることがな

かつた。久し振りに天測をやつたり、レーダーの配線図を眺めたりして、船会社に入り船に乗れたことの喜びを満喫したものだ。

ヴアンクーバーは当時は日本船がまだ珍らしい頃で二世の娘さん達が船へ遊びに来たり、旧日本人街（当時は華僑街になつていた）で日本酒とスキヤキを喰べさせて貰つたり、乗組員同志で野球をやつたり楽しい想い出ばかりだが、ビールを十二杯飲めば十杯分払えばよいし、バスの切符も十二枚買えば十枚分で良いというわけで「一ダースなら安くなる」というのが本当であつたことが愉快だつた。スタンレーパークで野生の栗鼠を見たのが物珍らしくて何時迄見ていても飽きなかつた。田舎者ですナ。

途中で海難が起りシヤトルで一週間ドツクに入つた時には二晩位徹夜で書類を作らされたが、ストリツプショーも見たし、バーにも行つたし、公園の芝生で昼寝もしたし辛かつた想い出はない。

ボンドのウイスキーをたんまり積んで帰路は荒天よりも酒に酔つてフワフワ帰つて来たが、彼女（今の女房である）に何か土産物を買おうと思つてあちこち探したが、とにかく良さそうなものは高いし、遂々今頃流行のインスタントコーヒーみたいなもの（粉コーヒーであつたかもしれない）を勿体ぶつて買つたものだ。

この次に海の旅行をする時には、バンとした超豪華船でスイスイと行きたいものだ。

二、空の巻

これは昨年のこと。生まれて始めてジエット機なるものに乗つて、これ又珍らしくて珍らしくて羽田から香港迄一生懸命に雲と海を眺めて行つた。飛行機の中で感想を書いてくれという紙が配られる。これはどの飛行機に乗つても配るのだが、何しろ初めてのことだから何か書かねばいけないと思つて考えたが何も書くことがないので、「快適です」とやつたものだ。貰つた方もさぞ快適だつたろうと思う。

香港まではBOAC、香港―プノンペン AIR FRANCE、プノンペン―バンコック AIR VIETNAM、バンコック―シンガポール THAI INTERNATIONAL 、シンガポール―サンダカン（ボルネオ）MALAYAN AIRWAY 。帰路はボルネオ航空CPA、香港から日本へはJALのDC8とあちこちのに乗つて来た。

空からみた南方の海のきれいなこと。雲の魅力的なこと。誰かが飛行機に乗つて雲をみていると飛びだしたくなるといつたが、本当にフツとそういう気になるものだ。

バンコックでは佐脇鷹平氏（丸紅）に完全に世話になりつ放しで、着いた晩は飲みつぶれ翌日はゴルフで所謂バンコック名所は全然お目にかからず終いだつた。氏はバンコックでは相当の顔らしく面白そうな話を（勿論夜の部である）随分聞かせて呉れたが

どの程度迄本当か（？）解らない。

MALAYAN AIRWAY では悽い荒天で、ボタボタ雨漏りがする飛行機に乗つたが、乗客の殆んどが小間物屋を開いていたのに小生は全然何ともなかつた。にふいのかな。

香港のCPAの案内所にスゴイ美人がいたが帰りはとうとうCALにした。日本の飛行機に乗つても黒い顔をして目ばかりギョロギョロしていると、中国人と間違えるのか折角久し振りに日本女性に御目にかかれたのに日本語で話して呉れないので少々ガッカリしたものだ。

こいつはやつぱり船旅程情緒のあるものではないが悪くない。次は北極廻りで欧洲へ行つて見たい。

三、陸の巻

汽車（電車）にも随分乗つた。乗つたが特急や寝台でゆつくりというやつは余りない。性分に合わないのかもしれぬが矢張りゆつくり寝て行けるやつが楽で良いと思う。

終戦直後、大阪から岡山の先までデッキにぶらさがつて行つたこともあり、広島から山口県廻りでグルッと日本海側を一廻りする貨物列車に乗つたこともある。その時に島根県の農家は一風変つた面白い造りだなあと思つたことがある。

最近伊東迄週末に家族連れで行つたが、たまたまストの日でもあつて数年振りに終戦直後の気分を味つた。人間特に女性はイザという時、物悽く斗争的になるものであることを再確認した。

この方はどこで何をして、どう思つたという強烈な印象があまり無い。ということは旅慣れているということかな。近頃自動車の免許を取つたのでこの処シキリに車をコロガシて喜んでいるが、これも慣れて了うと面白くないのかもしれない。箱根の新道がすく頃箱根廻りをやり、次は東海道をスッ飛ばして六甲迄水泳の試合を見に行きましよう。

旅

学21　岡本忠男

旅！　学生時代の旅と社会人になつてからの旅、内地の旅と外国の旅、旅には色々あるがそれぞれたのしいものである。

中学生時代、門司であつたので、修学旅行で朝鮮、満洲に旅行し、新京まで行き帰途旅順より船で帰つた。今の時代では行きたくても簡単に行けないところである。

大分高商時代、別府から湯布院一帯の温泉場を暇をみつけてはうろつき廻はつた。小川のすぐそばで、湯がこんこんと湧き、人里離れた天然の風呂で体を休めるのも風流であつた。宮崎、青島

まで見学もした。この頃より放浪癖が芽を出したのであろう、父から金をもらつて、全く目的も計画もなく、汽車に乗り熊本、霧島温泉、鹿児島と一人旅行をした。どうしたことか帰途、鹿児島本線の水俣に真夜中につき、旅館は閉り、仕方なく駅のベンチで一夜をあかしたことがあつた、かえるがガアガアと鳴き、一人旅の私の旅情をなぐさめてくれた。朝早く人声に目を覚ますと、出征軍人が見送りを受けて出発する光景に会つた。何時かは軍人として戦地に行かねばならぬ私であつたが、のんきな旅をしている私は恥かしく思つた。水俣(ミナマタ)には駅から十分で、海のすぐ近くに温泉場がある。不知火(シラヌヒ)海をながめ、湯に入り乍ら、将来の自分の運命を静かに考えた事があつた。・・・・ 長崎商高との水泳対抗試合で、雄大な阿蘇山、島原半島の島原、雲仙、長崎に行くことが出来た。島原で、バスの中で愉快に騒いでいたら、私服の巡査に呼び止められて、派出所で説教をくつたことがある。キャプテンの私は理由もわからず、平あやまりにあやまつて、冷汗をかいたことがあつた。当時の巡査は学生を目の敵にしていた時代である。とんだとばつちりをくつたものである。長崎では先輩が支那料理を御馳走してくれた。持つべきは先輩であるとつくづく思ひつゝ腹一杯の御馳走になつたことがある。私たちの高校時代には香港、上海、青島、又は比島方面でも自由に旅行が出来たのであるが、夏休みには全国高商の水泳大会があり、東と西の大会で三等までの入賞者は宝塚か、神宮のプールで決勝戦に出場せねばならぬため、海外旅行の機会にめぐまれなかつた。だが後年、戦争で比島方面に命を賭けて、無料で旅行したのもなにかのえんかも知れぬ。

神戸大学時代、東京で三大学戦が二度あつたが、一度は試合が終つて、テントを持つて友人と富士の山中湖でキャンプした。朝早く太陽が湖を照し始めた頃、もやのかゝつた湖に入り、鳥の鳴声を聞き乍ら、スイスイと泳ぐ時のすがすがしい気持は今尚忘れられない。二度目は日光、そして軽井沢、野尻湖、長野、上高地まで足をのばした。〃信濃では月と仏とおらがそば〃の一茶の俳句を思ひ出し乍ら学生の一人旅を続けた。既に米国と激戦中であつた。心にあわただしさを感じていたが、旅はやめなかつた。

戦後社会人になつてからも旅は続けた。別府に家族同伴で二回、山陽方面では岡山県の湯郷温泉、山口県の湯田温泉、山陰方面では出雲二回、米子の皆生(カイケ)温泉三回、美保の関、大山、松江、浜村温泉、鳥取の砂丘、城崎温泉そして天の橋立、高浜方面まで行つた、近畿地方では志摩方面、白浜、勝浦温泉には三度、石川県の山中、片山津温泉にも数度、熱海、伊豆半島には五回以上は旅をしている。全く自分乍らあきれたものであると、つくづく思ひ乍も、団体旅行、招待旅行、家族旅行をした。行かないのは四国と奥羽地方だけである。

私は学生時代富士山をながめるたびに、一度は登山したいと思

つていたが、その機会を得なかつたので、結婚して子供が出来たら一諸に行こうと長い間待つていた。その時期が来た、昭和三十七年七月、私も四十才になつた。子供も高校一年生、中学二年生、小学校五年生となつた。この時期をはずしては二度と行けぬと思ひ決行した。妻は恐れをなして参加しなかつた。次男は風邪で少し熱があつたが、無理に引つぱつて行つた。夜行で出発し、思ひ出の山中湖を見て（俗化した姿に反つて淋さを感じた）河口湖ホテルに一泊した。四合目であつたと思うがバスで行き、そこより歩いて七合目まで行つて一泊した。こゝまではおやじ面をして常にリードしていたが、翌日、足腰痛み、長男と次男は先に行き、三男とふうふう言ひ乍ら、やつとのことで頂上に登りついた。朝日に輝く富士山！私は永い念願がかなつて満足感にひたつた。帰りは砂すべりを下り、何度もひつくり返り乍らふもとに到着した。大自然の中で汗を流し、子供と旅をするのも又一興である。

三十八年四月にはアメリカ旅行をした。異国の旅は格別、数知れぬ楽しい、苦しい事に出会い、なつかしい思ひ出となる　詳述は後日発表することにして、たゞ異国の旅は行つて見るだけでなく、祖国日本を対比し乍ら、考える事が多いことだけ述べておこう。

同年七月には北海道に行つた。今年も六月には三つも旅行計画がある。

何故旅をするのであろう、私にもよくわからない。見えざる手にさそわれて、忘れた草を求め歩くのである。旅は行けるときに行つた方がよい。行楽はその折々に行うべしである。

「旅」・「タビ」

新9　野田浩志

私は仕事の都合で、よく「タビ」をする。今日、豊橋に居るかと思うと作日は下関で仕事をせねばならない、ということも普通になつた。これを旅と言えるかどうかはともかくとして、旅客列車に乗り、旅館に寝倉を求めているからには、才三者からは、十分に旅行者として認めてくれている様である。けれども、つゝましくも期待感に満ちたハネムーン中の御両人を、レジャーを楽しむ家族を、限られた日数を有効に利用せんとして、車中から酒宴を張る合理的な団体客を、サンタクロースの様な山男etc を横目で見ながら、マーケッティング戦略とやらを練つている御本人にしてみれば、いい迷惑である。

そういう私自身、旅は非常に好きで、学生時代に水泳の合宿練習に出かけた旅を除いても、よく「旅」をしたし、その時はきまつて、安上り旅行を楽しんでいる方である。人には「最低旅行は

学生に与えられた特権だ」と弁解じみた言訳をしていたけれども、今になつてみれば、その先見力に、いささか鼻を高くしている次第である。

大学一年の時に、中国地区一周旅行をした時のことである。四泊五日の日程の中に、沿線の名所旧跡を隅なく訪ねるべく綿密な計画を立て、姫路発、午前六時、播但線山陰線に沿つて、玄武洞、城崎、鳥取砂丘、松江、宍道湖、出雲大社、日の御崎燈台、山口線では長門狭、秋芳洞（秋芳台）を通つて、山陽へ出る。宮崎、広島、尾道、岡山のコースを鈍行の旅を続けた。夏中、水泳で練えたタフな身体をもつてしてもグツタリと来てしまつた。途中、長門狭でのこと。午後九時過ぎに長門狭へ着き、早速安宿を探し歩いた。初めの宿は素泊三百五十円を主張して譲らない。これでは予算オーバーは明らかだ。不利を知つて断わつてやつたら、おかみさん「こゝには旅館が二つしかないよ」と言いやがつた。まゝよ と次の宿へ飛び込んだら、案の定三百五十円を提示してきた、小生の二百円とは大巾な開きがあり、とうてい受諾出来る額ではない、度重なる交渉の結果「雨露をしのげる所ならどこでもよい」との小生の精神的譲歩によつて妥結、通された部屋は何と五十〜六十畳もあろう大部屋にフトンが一つしいてあるところだつた。しめて三千円の中国漫遊記。

今にして思えば鈍行にゆられ、マドロスパイプをくわえ、ハンティ二枚（これは絶対必要である）シャツ一枚、タオル一枚の旅は一生出来ないことだろう。

夏山登山の折である。例によつて予算ギリギリの放浪を続けていたところ、運悪く豪雨に会い、山小屋泊りを余儀なくされたことがあつた。さあ大変である。日程も終りに近づき前日には、交通費を除いて一切の金を散財したあとであるから、上高地へ着いてもうろうろするばかり、派出所へ行つても、近頃のポリさんは我々に交通費を貸してくれるだけのオメデタイ人はもういない、松本駅へ行けば「着払」にしてくれるだろう。と希望的観測をしてくれるのみで、全然アテにならない。最後の手段として、アベックをネラえ！しかも大阪のアベックを！ということに衆議一決、三々五々に散つて、アベックの睦言に小耳を傾け、「アイツラ、大阪のヤツとちやうわ」と懐しのナニワコトバを求ゆて歩いた。ついに、ある男「大阪のアベックがあるぞ！」ということで、各自身分証明書を手に頭を低くたれ、借金に成功し無事帰阪したこともあつた。

この時ばかりは、女を連れた男ほど「弱い」ものはないと、つくづく感じたものである。

さて、現在の私に立ち帰ろう。

「集金旅行」という映画があつた。いとも色気の多い映画であつたのを覚えているが、この三月であつたか、私も集金旅行なるも

のをやってきた。山口県の奥地の代理店を訪れての帰途、山口へ出るためにバスに乗ったところ、バス連絡の都合で秋芳洞で小一時間ほど待たねばならない。それでは、なつかしの秋芳洞へ入ってやるかと思い立ち、カバンを預けて勇躍入って行ったものの、「青天井」（入ったところから数分のところにある）にまでさしかゝったところ、ガイドの説明など耳に入らない、カバンのことが心配になり、荘厳、奇岩を誇る秋芳洞を後に退散、オミヤゲ屋で、「素うどん」一杯で、小一時もバスを待った時のつらさ。全く商売の道はつらいものです。

その昔、母親が「可愛い子には旅をさせ、憎い子には饅頭を喰わせ」という諺を引用して、おだてながらよく使いにやらされたことがあった。

「小型で軽量にして強馬力のカワサキ空冷エンジン」とくり返しつつ「タビ」する我がセールスマンは、天下のカワサキマンでございと紳士（全くそのつもりでいる）を自認しているのだが、本社へ帰ると「田舎紳士」と言われる。全く、これを母親の言う「タビ」と言うのだろう。

凌泳会の部会計報告

昭和３６年度収支決算

収入	前年度繰越金	1,055
	本年度会費	152,500
	会合費	19,900
	計	173,455
支出	凌泳発行費	19,340
	水泳部援助金	110,000
	通信費	6,174
	交通費	13,995
	印刷費	280
	雑費	1,543
	会合費	20,298
	次期繰越金	1,825
	計	173,455

昭和３７年度予算案

収入	前年度繰越金	1,825
	凌泳会費	180,000
	会合費	20,000
	計	201,825
支出	凌泳発行費	20,000
	水泳部援助金	134,000
	通信費	10,000
	交通費	14,000
	印刷費	500
	会合費	20,000
	雑費	3,325
	計	201,825

水泳部の部

昭和３６年度収支決算

収入	前年度繰越金	553
	凌泳会援助金	110,000
	部費	331,800
	育友会援助金	25,600
	会合費	52,000
	雑収入	36,840
	計	556,793
支出	水連加盟費	2,500
	試合費	49,544
	会合費	62,130
	合宿費	373,099
	交通費	8,284
	通信費	2,436
	設備費	20,570
	医療費	2,120
	雑費	15,530
	記念品代	5,980
	次期繰越金	14,600
	計	556,793

昭和３７年度予算案

収入	前年度繰越金	14,600
	凌泳会援助金	140,000
	部費	300,000
	育友会援助金	26,000
	会合費	50,000
	雑収入	20,000
	計	550,600
支出	水連加盟費	2,500
	試合費	60,000
	合宿費	370,000
	交通費	8,500
	通信費	2,600
	会合費	60,000
	設備費	25,000
	記念品代	7,000
	雑費	15,000
	計	550,600

37

部の現状

T11 主将　丸山卓也

五月も中旬を過ぎるといよいよ練習は本格化してきます。本年新入部員十数名を含めた四十名が今シーズンの活躍目指して張切つております。しかし今年卒業された十一名の先輩方はすべてそれぞれの分野で立派な選手であつただけに、その穴をうめるのは容易な事ではありません。競泳に水球に層の厚い選手を容していた神大水泳部の一大ピンチというところですが、現役部員一同このピンチを乗切るべく最大の努力をするつもりでおります。では競泳から現状をお知らせします。

フリー陣では昨年浅間さんのようなエース的存在がなく、平岡、荒井、武政、石原の四人が八百米で十三分フラットで泳いでいますが二年の石原の伸びに注目しています。又これにつぐものに昨年から伸びた、堤、鈴木(正)、夏見、窪田がおり、いずれも十三分三十秒前後で泳いでいます。

バタフライは現在練習しているものがなく選手のいないのが悩みです。フリー陣の中から兼業しなくてはならないのではないかと思います。

ブレストは私と藤岡、竹内といますが、萩原さんのあとを埋めるのが大変です。今のところ私が三分十五秒ほどでこれに次ぐ人のいないのは寂しい限りで、あとに続く人の奮起を期待しています。

さてバックですが、神大の巨砲であつた井上さんが出られた後、安茂、前田、が頑張っているのですが、百米で一分三十秒をわれない現状です。しかしこの二人は練習熱心なのでもつと伸びると思います。

水球の方では昨年堂々一ツ橋を破り、三年計画を達したのですが、本年もぜひとも一ツ橋に勝つて三商大の完全優勝の王座を守ろうと最も力を入れています。

昨年からの選手として残るものは、フオワードの荒井、バックスの私と窪田ですが、三年生の進境を期し猛練習で鍛えています。まずフオワードには荒井を中心に私と堤、平岡がやりそうです。平岡は六月一杯教生の為あまり練習に出てこれないので堤に期待しています。堤は本来素質に恵まれており今年はやる気充分なのでかなりやれるのではないかと思います。

バックスには昨年からの窪田、夏見、三年の武政、鈴木正、安茂、二年の前田がやりそうですが、この中でも特に武政の機動力に期待しています。窪田、夏見は今年が最後と必死に努力しており、本来努力家の鈴木正、安茂、前田も活躍を期待しています。

キーパーには鈴木(剛)、由井、がおり、竹元さんの穴をうめ

るべく懸命の努力を続けています。

水球の試合はまだ一度もなく、調子は出ていませんがこれから練習試合を多くやり、実戦に於て経験をつんでゆきたいと思っています。

新入部員の中には将来が楽しみな者も二、三おりますが全体的なレベルは低いようです。しかし本年度は競泳のレベル低下を水球の方でカバーすべくやるつもりです。まだまだシーズン始めでこの状態が大きく変わることもあろうかと思います。

平日は毎日午後一時半より五時半迄練習を行い、日曜は一時より練習を行っていますのでプールにおいで下さって激励して戴ければ幸いに存じます。今後共よろしくお願い致します。

37

「悲しきポロの物語」

――或るポロメンの手記より――

「オーイ、今日の練習後、スイキュウをやるぞ」。姫路のプールサイドで時の二年生にこう云われて、「さすがは二年生だ。水瓜をおごってくれるとは」。と一人内心ニヤニヤしていたところ、いきなりプールの中に浸けられて、一つのボールを渡されたのでびっくりした。この時、初めて水球、即ちウォーター・ポロは、水瓜とは断じて区別せらるべきものであり、腹のふくらむものに非ずして、腹の減るものであるという稚い認識が起ってきた。しかし、六甲台の方に、植中さんという怖いコーチが来て下さるとは夢想だにしていなかった。時あたかも一年生の六月の頃であった。

§　§　§

植中さんを実際に知ったのは、二年生の二次合宿の時である。慶応大学の出身と聞いていたので、色白のスンナリした人を想像していたが、実際は、ずっとハンサムで男らしく、ガッチリとした立派な体格の人だった。眼光鋭く、丁寧な云葉使いが、かえって恐しい人だという印象を強めた。そしてその才一印象は、あの立派な身体一パイに闘志を表して我々を指導して下さる態度によって裏付けられた。僕は未だ小さかったので、この二次合宿に参加したのを後悔した。

§　§　§

植中さんは、二次合宿中、しばしばやってこられた。しかも、丁度三時か四時ころ、こちらの練習が一段落ついてグッタリとなったころである。あのヒルマンが坂の下から登ってくるのが目に入ると、脚の力が下の方から抜けてゆくのを感じたのは僕一人ではあるまい。車から降りてプールサイドに悠然と立たれた姿は、僕の心の底まで震駭せしめるには充分であった。この世に生を受

けて二十数年、こんなに怖い人に逢つたのは、親父と永野さんを除けば、初めてである。そしてそれは、現在にも云えることである。僕はこの合宿中、ヒルマン・ノイローゼに取りつかれた。

§　§　§

この合宿後に行われた、対一橋大学との水球戦には、諸々の事情から、僕が出場することになつた。したし初出場の為に、充分なる働きは望むべくもあらず、遂に敗れてしまつた。プールの上からは、植中さんをはじめ、多数の先輩方から激励され、――実はドヤシつけられ――プールの中では敵のバックに可愛がられ、全くの死ぬ思いであつた。そうはいうものの敗れてプールから上つてみると、「皆に済まない。来年こそは。」という気が起つてきたのは本当である。と同時に、「来年は植中さんにあまり叱られない選手になろう。」という余裕も生れて来た。それは少くともあと半年は植中さんにどなられないですむという安心感の表れだつたかも知れぬ。

§　§　§

三年の時は、多忙の故に前年程はプールにおいでにならなかつた植中さんではあつたが、影でいろいろと前年にも増しての御指導を頂いた。我々は教つたことを我々のみで反覆した。しかしなんとなく物足りなかつた。寂しい気がした。僕は沈滞しかけた。そして他の部員にかろうじて引張られて行つた。その時に、植中さんとの関係で竹内さんが代りに来て下さつた。僕は、竹内さんの中に植中さんと一脈通づるものを見出し、元気づいた。皆も元気づいた。そして植中さんの眼前で、しかも植中さんのジヤツジのもとで、宿敵の一橋大学を破つた。

§　§　§

僕がシュートをしようと球をもつて、植中さんがゴール全体を庇う様に双手を拡げて、グツと浮き上がる。僕をにらみつける鋭い眼、その力強い威圧する様な姿が、いつまでも僕の頭の中に残つている。僕は思わず球を手からこぼす。

§　§　§

植中さんがゴールを守る時には、我々フオワードはゴールの半分しか破り得ないということを肝に命ずべきである。半分は植中さん自らが守つている側であり、我々の力量いかんでは破り得る領域である。そして残りの半分は絶対に破ることの出来ない領域であり、守り手は勿論、かの美しき女性の幻影である。

§　§　§

僕が学校を出て、後輩のコーチに来れる様な身分になつたとしたら、先ず、ヒルマンを買つて、三時か四時頃にプールにのりつけようと思う。そして僕達の時代よりずつと腕の上つている後輩を捉えては、「俺の学生時代には、現在文部大臣になつておられる植中耕一さんによくしぼられたよ。頭をなぐられて一週間程意

識の回復しなかつた者もかなり居たもんだ。」といつて、大いに激励してやろう――実はドヤシつけてやろう――と思う。

その時には、そんな僕を見つめてにつこりしている、みめ美わしき女性が傍にひかえているであろう事は、既に現在から真の部員の間で大いに噂されている。

（特に著者名を秘す）

旅

J 11　窪田信雄

「人生は旅のようなものである」。という言葉がある。これは、旅のはかなさ、わびしさ、頼りなさが人生のそれと一脈相通ずるところがある由縁から出た言葉らしい。

まだ交通が充分発達していなかつた時代に、芭蕉や西行のたどつた旅はこうした人生にもたとえ得るような苦難に満ちた旅であつたろう。故郷を遠く離れ、長く苦しい旅の途中、異郷の空の下で一人もの思いに沈むとき、そくばくと胸に迫り来る思い〝旅愁〟とはこういつたときの心境をいつたものであろう。

しかし、現代に至つては、レジャーブームに乗つて、ザコもものらさぬ位に張りめぐらされた交通網をたぐりながら、我も我もと気軽に旅に出かける。定まつたスケジュール、定まつたコースに従つて、あたかも展覧会の絵を見て歩くかのようにいわゆる観光地と名のつくところを、せかせかと気ぜわしげに通り抜ける、といつた旅行をする人が多くなり、じつくりと旅の味を味わうということが少くなつたのではないかと思われる。（それは又、現代人の人生の在り方を象徴しているのかも知れない。）又、こうした旅行では、旅のはかなさ、わびしさや、旅愁などというロマンチックな気分に浸れることはごく稀ではないかと思う。

「すべて旅行はその速度が正確になるにつれて退屈となる」。という諺がある。時には、のんびりと自分の気の向くままに旅の味をじつくりとかみしめてみたいものである。

僕は、何ということなしに、あちらこちらのお城を見て歩くことが好きであるが、同好の志がないために一人で旅行することが多い。ショルダーバックに旅行案内と汽車の時間表、それに折りたたみ式コーモリをほうり込んでブラリと汽車に乗ると、後は足の向くまま、旅費と暇の許す限り見たいと思うところを気のすむまで見て歩くことにしている。こんな時には実にのんびりとした気分になる。何か、自分の人生交響曲の楽譜に四分休符が打たれたような気がして、大きく、力一杯深呼吸したい衝動にかられる。自分の世界が急に広くなつたように感じ、実に愉快な気分になるのもこんな時である。

一年生の夏も終らんとする頃、紀伊半島を一回りするつもりでブラリと出かけたことがあつた。途中、高野山に登り、静かな山上の仏都で心ゆくまで時を過した。その夜はそこで泊りたかつたが、時、金共に余裕がなかつたので、橋本で最終列車に乗り継ぐべく電車に乗つて山を降りた。電車には乗降する人がほとんどなく、二輛連結の電車は、運転手と車掌と僕とで独占されていた。やれやれ今日の旅も無事済んだかと、誰も坐つていない長い座席の上に身を投げ出し、心地良い電車の震動に身を任せて、鼻歌まじりの快適な気分に酔つていた。

ところが、橋本駅のホームに降り立つてみるとどうも様子がおかしい。まもなく最終列車が来るはずなのに、改札口は閉つているし、汽車の来るホームには若い駅員が唯一人、涼風の立つコンクリートの上に、砂ぼこりをたてながら水をまいている。さてはと思い、おそるおそるその駅員に尋ねてみると、何のことはない、時間表が四、五日前に改正され、赤いランプの終列車は既に出てしまつた後とのことだつた。僕の方ではさして驚ろきはしなかつたが、その時のひしやくを手にした若い駅員の気の毒そうな顔が、我事ながら哀れをとどめた。

さてといつて、宿さえ借りる金もなし、お宮、お寺を仮の宿とも思つたが、こんな夜更けに探して歩くのも面倒故、やむなく、二尺二間の待合室のベンチを仮の宿として、Lumpen と添寝の一夜を明かすことにした。

硬く冷たいベンチにひつくり返つて、静かに目を閉じると、周囲の刺激が一手に耳を攻撃して来る。

人気がなくなつてガランとした駅のホームを、地下道を潰れたバケツがころがつて行くような音をたてて貨物列車が通り過ぎて行く。家路へ急ぐ駅員の靴音が、背筋に爪を立てるように近づいて来て遠くへ消えて行く。

真綿に針を含ませたような、冷たさとなま暖たかさがミックスされた風が、大きなトタンの戸の隙間からこつそり忍び込んで来て首筋からそろつともぐり込む。そして背中をゴソゴソと這い回り体をブルッと震わせて袖口からスルリと逃げ去る。どこから忍び込んで来たのかコーロギが一匹、ベンチの足元ですすり泣き始めた。コロコロ、コロコロ、コロコロ・・・。秋がリンボーをしながらジリッ、ジリッとにじり寄つて来るようだ。隣のLumpenが寝返りを打つとコーロギの声がハタと止んだ。静かな夜だ。螢光燈のジーという音が思い出したように聞こえ始めた。遠くで汽笛が鳴つたような気がした。じつと目をつぶると、体中の疲れが上まぶたに集まつて来る。又、コーロギが鳴き始めた。コロコロ、コロコロ、コロコロ・・・・・。

たわしで心臓をこすり上げるようなわびしさが胸の奥底からもつれ合いながらわき上つて来て、体中に広がつて行く。

僕はこのとき、〃旅愁〃という言葉の真の意味が判つたような気がじた。

僕は、昨、一昨年とバタフライを飛んだ。泳いでいると、何とも堪え難いわびしさに襲われて、胸がしめつけられるような気がする時がある。昨年度のキャプテンである柳本さんは、「悲しきバタフライ」という名詩を詠まれたが、やはり僕と同じような気持を味わつておられたに違いない。

ゴールしたときの喜びを胸に描きつつ、頼りなさ、わびしさ、苦しさと戦いながら、いつ果てるとも知れないロングをバタリ、バタリと飛ぶバタフライ。人生は又、バタフライのようなものであるのかもしれない。

巻足中に考えること

B11　荒井康之

「巻足は苦しいものだ。」と三年の初めにはよく思つた。そして、この苦しみから逃れんために、一人早くからプールに来て、どうしたらよいかと研究したが大した効果はなかつた。そんなことを二週間位も繰返しているうちに、偶然井上さんが早くプールに現れ、二人であれこれしているうちに、たつた十分間位で、曲りなりにも巻足が出来る様になつた。その時は嬉しくて、他の部員をつかまえては、足前の程を披露したもので、特に未だ不完全な巻足しか出来ない者には、威張つて教えてやつた。苦しいと思つていた巻足も一旦出来る様になると、浮いたり沈んだりしている奴を見下す楽しみが生れて来る。

あれから一年、今では俺と違つた奴等が、「巻足！」と云うたびごとに、ブツブツ云つている。そして水中では、耳をおさえ、口をおさえて浮き沈みしているのを見るにつけ、「俺もボンヤリしているうちに四年生になつてしまつた。」と腹の底からなんとも云えない感情が、プールの底の落葉と共に浮び上つて来る。

巻足十分、というと短い様で長い。そして疲れというよりも、その単調さに息苦しさを覚えることがある。時々、三、四秒水中に頭を突込むと、頭がスーとして今までの単調さが消え去り、一瞬何もかも忘れてうつとりとする。時に頭上で太陽が輝き、六甲のプールがエメラルド色になる頃に、カルキの臭いのただよう中に浸つて、上級生の監視の目をくらましてスーと水中に沈み、そこから、緑の水と白い泡を通して目に入る光線の美しさを楽しめば、「コラー沈むな」の怒声の掛かるまでは、本当に無我の境地に達したものだつた。

四年になるとその楽しみも消えさり、意地悪くも、下級生の楽

しみを無惨に破壊する楽しみのみとなる。しかし今年の下級生はいかがわしい輩が大多数なので、沈んで無我の境地に達するのでなく、昨夜のことを思い出しては、目の前で必死に巻足を続けている四年生のヘソを眺めて、一人ニヤニヤしているのかもしれない。

卒業生はどう思つて巻足をやつていたのだろうか。立派な方達ばかりであつたから、「社会に出たら、世の中の役に立つ人間になろう。」と考えていた人達がほとんどあつたろうことは確かであるが、「今日の晩メシは何かな?。」と真剣に考えていた人も居たことは、前者に劣らず確かであると信じている。

水泳四年生

P11 藤岡治男

今年で自分も水泳部生活四年目を迎える事となつた。数えてみれば一年生から現在まで水泳部の合宿には一年で三回、二年で四回、三年で四回、四年で二回計十三回の合宿生活を経験した事になる。とにかく自分達の時代になつて本格的合宿がふえた、以前は合同練習であつたそうな姫路合宿、春の温泉プール行きも正式に春期合宿とされたし、考えて見れば四月、五月、六月、七月、八月と四月から八月まで毎月一回は合宿をしている事になる。合宿の回数を増したが又部員の数も年々大規模になりつつある。今年の春期合宿では、一年生がまだいないのにもかかわらず、合宿に参加出来る人数が制限された程だ、しかしこの程度の合宿訓練を行わないと今の水準についていけなくなつて来たのかも知れない。

数多い合宿生活の中でこれからもずつと頭の中に残るのはやはり春期合宿で二度伊豆の峯温泉へ行つた事と、今年白浜温泉へ行つた事であろう。シーズン始めに遠征して今年こそはと云う気持があつたからだろうか、又今年の白浜温泉はこれが自分の神大水泳部に於る最後の春期合宿になると云う感があつたのだろうか。峯温泉へ行つた事を思い返してみると、大阪を真夜中に出るドン行で熱海までそして伊東へ着くのが翌朝十時半ごろ、そこからデコボコ道をバスにゆられて伊豆半島を南下、二時間半立ちんぼの事もあつた、それでも宿舎に着けばそれまでの疲れも忘れてすぐプールに飛び込んでしまう。伊豆の温暖な気候、それに二十八度から三十度もある水温、六甲台プールでは考えられない最高の条件である。朝飯の前に泳いだ事もあつた、日本の一流の学生水泳界の選手を夜電燈の下で泳がせ自分達が昼間ゆうゆうと泳いだ事もあつた、そんな合宿でも、やはり学生時代の印象付けられた一頁として永く記憶している事だろう。これからある残り三回の合宿、

一層印象深いものになる様努力して行きたい。先輩諸氏の御指導と御声援を心から願う次才です。

〃今シーズンに期す〃

E 12　鈴木正弥

この愛すべき水泳部に入ってから、二年間がまたたく間に過ぎ去り、いよいよ三年目である。大学でスポーツに親しみ、心身を鍛えあげることこそ、高校時代からの大学生活に寄せる期待であった。ところで何故に水泳に身を投じたかは、自分でもはっきり解らないが、人間は本質的に水を求める動物であり、偶々、水泳活動が非常にきついものである事を知るに及んで、自己の試練として、最適と考えたのか、大体そんなところであろうか。

今や、水泳は自己鍛練の手段としてではなく、目的そのものに高められてきた。水泳こそ、今日只今の大学生活における生きがいであり、毎日毎日を誇りと勇気を持って生きてゆくためのバック・ボーンである。今こそ、各部員は、泳ぐことに生きがいを感じている仲間であり、苦しみを共に分け合うに足る友人である。上級生も下級生も等しく親愛なる仲間である。その仲間から脱落者が出る事は残念であるし、仲間の団結や志気を破壊する行動は断じて許されない。

一年生の時はマンドリン部で活動していたため、水泳に没頭したとは、言い難く、泳いでいたブレストも物にならずであった。二年生になって、我部がボロに相当の力を注ぎ込んでいる事に着目して、フリーに転向したものの、タイムがさして伸びず、従ってボロでも自信を持つまでに至らず、徒らに水泳の難しさに打ちひしがれて、いよいよ今シーズンである。

今春、昨年の主力であった十一名の四年生が卒業され、今や努力次才では、レギュラーの地位を占め得る時が来ているのである。正に、今シーズンこそ、自己の存在を高々と示し得る最良の時期である。毎日の練習にも張りが出てくる。六甲台の冷たいプールも、酷と思われる練習量も苦痛ではなくなってくる。水泳部に於て、自分が求められる存在となるという事は、全く自己の精進の賜であると考える。

今シーズンは昨シーズンに較べて大幅な戦力低下が心配されている。しかし、永く、続くであろう神戸大学水泳部の歴史に、みつともない一ページを記すことは、我等、現役部員が最も許さな

いところである。この逆境に打ち勝ち、神戸大学水泳部の偉大さを示すためにも、何より部が勝利に向って、激しい意欲を持ってまとまらねばならない。このために、また、二年間の下積み生活を見事に開花させるためにも、より一層の精進が自分に望まれている。

「白浜に自炊するの記」

B2
1　武政英幸

この四月に行われた春季合宿は、昨年、一昨年と続いた伊豆の崎温泉から、河岸をかえて南紀白浜温泉に行ってきた。場所が違ってくると、又色々と今まで味わえなかった苦労や愉しみが生れてくるもので、白浜でも、皆それぞれに身をもって感じてきたことであろう。中でも、共通して皆の胸中に残っているのは、この合宿の採用した自炊システムであろうと思う。部員の中には、自炊生活を送っている者が数人いると分ってはいても、チキンラーメンやコロッケでその場をしのいでいる有様を知っている丈に、白浜では自炊だ、と決った当初は、うまくいくだろうかと危ぶまれたのは当然のことであった。姫路分校当時に、プールサイドの焚火に使うドラムカンで、時々スキヤキをしたものだが、Y君とT君とかいった衛生観念に欠けるところのある連中が、そこら当りに落ちている棒切れを、底の白線ももう見えなくなっているプールの水で申し訳ばかりに洗って、鍋の中をかき回していたことが、まず想い出されて、今度の合宿では、一体まともな飯にありつけるだろうか、と心中秘かに悩んでいたのは、私一人ではなかったろう。実際の処、自炊が出来ると聞いて楽しげな顔付きをした部員がいるにはいたが、到底その気持は理解の及ぶところではなかった。三月下旬にトレーニング・インして合宿に期しつつあった頃、スプリントと共に私が、今回の食料係だと知らされて相当なショックを受けた。全然自信がなかったのだ。ところがである。目の前は暗闇ばかりではなかった。林さん、楠本さんというクッキング・スクールに通うお嬢さん方が、一年間に及ぶ研鑽の腕を撫して同行して下さることに決ったのだ。林さんは、四年生部員林荘八郎兄の妹さんで、楠本さんはその友人であることから、この話は快調にまとまった。白浜は温泉地の由に物価高と聞き、米、調味料等は持っていく様、手筈を整え、愈々白浜に乗り込んだ。宿舎が正規の宿屋ではなく、バンガロー宿舎であることと、炊事場、炊事道具のミニチュア振りが、まず彼女等を驚かせた様子であった。二十数名の食事とあって、初日はずい分時間を要したりして、大変苦労しておられたが、翌日からは、早速コツをのみこんで、ありつたけの道具を上手にこなして、流石は、と

思わせた。部員の批評を総合してみると、量質共に、今迄の合宿には見られなかつた素晴らしさで学校の成績でいえば、間違いなく「優」になるとのことであつた。我々の合宿といえば、予算の乏しいことから余裕のないものだが、その範囲内にうまく収めて、皆に満足感を覚えさせたのは、何といつても、御二人の腕の良さに帰すべきであろう。飯たきと朝のみそ汁は、三年生、二年生が、一日単位の交代制で担当した。お蔭でコゲメシはともかくとして、おかゆ一歩手前やブチメシは、再三再四お眼にかかれたし、ジャンジャン市場にも優る、からい汁も味わうことができた。家や下宿では仲々頼んでもこんなのは作つてくれない。それでも、よくしたもので、朝昼の炊きあがりで悪評を買つても、夕食で愁眉を開くといつた調子で、三食共失敗する組がいなかつた反面、全然文句を云わせない程の天才組も見当らなかつた。

神戸に帰つてから、この合宿のことを考えて、まつ先に浮び上つてくるのは、この自炊をした、ということである。今後もこの様な合宿が可能であろうか。少人数の自炊ならともかく、二十名を越す合宿では、問題を生ずる。例えば、当番に当つた日は、皆と同じように練習していたのでは、飯がとても間に合わない。だから当然、それ丈練習量が少くなる。今回の場合、林、楠本両嬢の参加で、お菜のことに全然意を払う必要がなかつたので、まだよかつたが、我々でそれ迄やるとなると大変であろう。自炊合宿は大人数でも不可能とはいえない。しかし練習面にかなり影響を持つことは確かである。今回の合宿で自炊するケースを一つ我々は手中に収めた。ともかく白浜合宿での自炊は成功であつたといえる。

この合宿以来、朝は六時十分前にパッチリと眼が覚める日々がしばらく続いていい傾向だと喜んでいたのに、又以前に、逆戻りしかけているのが、唯一つ残念である。

白浜合宿について

エ2
1

清水暁夫

天王寺から何と五時間、進行時間より停車時間の方が長いかとも思われるのんびりした鈍行列車で白浜口に到着した時は、本当にやれやれと思つた。

我々の合宿所は東洋一と自称する豪華な古賀の井ホテルと思いきや、古賀の井北チョット入るアベック用のバンガローで、これから八日間むくつけき男子等（おのこら）と数夜を共にせねばならぬと思つたらとたんに力が抜けてしまつた。

さて才一日目は軽く午前中は四百二本、午後は四百一本とダッシ

ュ五本で、シーズン初めとしてはまずまずであつたが、競泳の期待出来ぬこの後せめてボロだけでもとその意気込みもすさましくさつそくボロメン達はしぼられ初日も何もない有様でその点気の毒にも思つたが、よく考えてみればメンバーからはずされている自分の方が一層あわれなので、我ながらなさけなくなつた。

ここで古賀の井プールについて説明すると、ホテルの裏側の海に面した小ぎれいな二十五米プールで、水温二十八度とは言えさすがに泳いでいる温泉客がなかつたのは設備の不十分にもかかわらず不幸中の幸であつた。

又プールサイドには色々な動物が飼育されていて、中でも傑作なのは仲むつまじい猿夫妻でその尻の赤さは檻の中を飽かずに眺めている竹内の顔の赤さを一層引きたてていた。

二日目からは本格的な練習が始つたが、なにしろ自炊による合宿なので思う様にまかせず競泳の時間が割愛されたのは残念だつた。出足の好調なのはフリーでは平岡さん、武政、石原等で、中でも平岡さんは四日目には早くも五〇インターバルに9本四十秒を切り、四百インターバルでもその好調さを示した。

ブレでは山口が丸山（兄）さんに肉迫して早くもその片鱗を示し前途を明るいものにした。

しかしながらバック陣の不安は被いがたく、安茂、前田両君の奮起が望まれた。

五日目に野田先輩登場、午後に中休みがあり白浜見物したが大した所ではなかつた。それより合宿中の最大の呼びものは、異例の演芸会であつた。出し物はピンからキリまであつたが、まずピンの方は野田さんの「お富さん」で一人数役とよどみなく流れるセリフの数々は満場を圧倒した。

キリの方は想像に違わず丸山（兄）さん、荒井さんの「医者と気狂い」で予期していた事とは云え一度見たら二度と見られない寸劇であつた。

又その外、窪田さんの女装は見るものためいきをうならせ、床を同じうする石原君もその夜はしばし悶え、朝起きてみたらいつの間にか窪田さんの袋団をはぎとつていたそうである。（関係ないかな・・・）

この様に苦しいが楽しかつた白浜合宿は最終日をレースで飾つて終つたのであるが、ここで二、三の点を反省してみると、自分をも含めて我々三年生はまだまだ三年生たる自覚が足らなかつた様である。

三年ともなれば四年生の決定した方針を実行にうつし、下級生を引つぱつていくベルトコンベアの役割をせねばならぬ。

この点に関して我々三年生はまだまだ自分の泳ぎ中心でその役割を十分果してなかつたのは残念であつた。

練習中のコールにせよ何にせよ何事にも卒先して当りたいものだ。

それから今年の三年生には萩原さんの様な人がいない事である。今まで我々は練習中に下級生に対してあまりにもやさしい態度で接しすぎた。又そういう方向に対して自分自身も満足していた。しかしながら一年半も部生活を続けてみるとそういう事に漠然とではあるが疑問を生じてきた。

練習中の不当ななさけは果して当人にためになるだろうか？否、かえって当人の緊張を弱め、心にすきをつくるもととなる。泳者の水泳中の心理というものは微妙なものだ。ちよっとした外部の働きが彼の心を動揺させそのタイムに影響する。この様な泳者の不安を取除くもの、それこそ上からのきびしい叱咤の声である。

このきびしさが当人の能力以上のものを生み出す媒体となるのである。

神大水泳部では従来皆黒パンツを使用してきたが、最近、黄色、ブルー等有色のものが登場するに至つた。

では一つパンツの色が視覚的或いは心理的にどんな効果をもつか考えてみよう。

まず、色彩機能の点で色の見わけやすさ、即ち遠方からでも如何に良く人の注意を引くかの程度は、赤→緑→黄→白→黒の順で悪くなつている。

従つて、交通機関の標色等に赤緑が使用され日通のトラックに黄色を用いる事により注意力をそそろうとしている点が伺ずける。即ちA氏の黄色のパンツは試合に於ては相手に自分の存在を意識させる点で、大きな力を発する事になる。

しかし、これは泳ぎのスピードには全く関係はない。

次に色の判別度、即ち二つ以上の色が存在する場合の見分け易すさについて考えると、色の判別度の高い組合せは、黒／黄、緑／白、赤／白、青／白、等であり、日章旗はそのよい例である。最近の話題の一つ、部旗の色は何色と何色を使用すれば適当かとか、ポロ用パンツの色はどんな色が好都合かという点もこの事から解決されよう。

もし、黄色のパンツを使用すれば、マークされる相手の黒い体がパンツ上にある場合。審判の目はより鋭く働く事になる。

又、薄緑は気分を静め、パステルカラーは食欲をそゝるといわ

色と水泳

山本忠比古

「色と水泳」という題をつけたが、お色気について述べる気は毛頭なく、色彩学的見地から水泳部内に見られる色について少し考えてみよう。

れる。

従つてH氏、T氏が、パステルカラーのパンツをつけた場合はその食欲は、マネージャーを泣かす結果となるかも知れないから注意を要する。

ところで、日焼けしたあの水泳部員の肌の色はどんな効力をもつているのだろうか。吾々の経験から云えば、あの色は女性の心を慄きつける色であるとしか考えられないが－－－－－。

水泳部に入つて

工14 白石由和

とにかく苦しかつたのです。手足を動かすのをやめれば、ぶくぶく沈み、口をあければ空気のかわりに水が飛び込む、「もう、だめだ。」と思つたとたんプールの底に足が着いていたのです。これというのも同じ寮や同じ母校の先輩や同じ室の水泳の達人とごちやごちや話しているうちに気がついて見るとプールの中に入らねばならなくなつてしまつたからです。こんなに苦しいとは想像しなかつたのですが、というのは僕は島で生まれ、島で育ち、夏ともなれば、連日、海にもぐり、大抵、蛸を数匹はつかまえました。なるほど、いつまでも海中には居ましたが、競泳等したことありませんし、距離的にも泳いだことがありません。しかもプールの水は味がなく、生くさく、始めはナメクジと一緒に風呂に入つているようなここちでしたから。

ところで自分はみんなのように体を丈夫にしようとか、速くなつてやろうとか、等々の目標を情ないことですが皆目持たず朦朧と水泳部に表われたわけです。まあ、たとえれば見合結婚と同じで、入部してから除々に水泳部が好きになつてきました。その好きになつた理由の一つに水泳部の Trade mark カツパがあります。僕は「定期券があればなあ。」と思うほど動物園にデツサンに通いますが、カツパはいくら探してもいません。なぜなんでしよう。カツパは高二の国語の教科書で出合つて以来、僕の愛好するところのものであり、猿と共に先生にしかられながらも、いつも、もくもくとかいてきました。これも何かの縁と思い、とうてい速く泳げることこそできそうにない自分ですが、速い面々の中でこんな奴もいてもいいだろうと、いま、なお、依然として、プールの中でのさばつている次才です。

水泳部に入って

T14　伊藤　暁

近頃では〝自分の実力から判断すれば当然のことさ〟などと考えているが〝どうして入つたのかな〟〝皆について行けるかな〟〝一人じやさみしいな〟と入学できた喜びと前途に対する不安とを心に抱きながら、お釈迦様のお生まれになつた夜ただ一人我が故郷浜松を発つたのでありました。

それから早一ヶ月半、学校、寮、水泳部の生活にもどうやら馴れてきて、そろそろジャンでも覚えようかと思つている次才であります。我が浜松からは寺田登、古橋広之進、山下勝二など世界的な泳者が出ているのですが彼等は彼等、俺は俺、僕の八百米のタイムがなんと二十八分台、全く郷土の人に会わせる顔がないといつた現状です。フリーでは腕と足は八対二の割合で使つて進む。それが最上の泳ぎだそうです。〝お前の腕は流しているだけだから進まないのだ。水をかけ、水を〟と先輩に言われましたので、そのようにしようと努力はしているのですが、悲しいかな持つて生まれたこの運動神経の鈍さ、なかなか思うようにできない自分であります。

だらだらし勝ちな寮生活をひきしめてくれるもの、それはサークル活動だ。サークル活動をするには何がよいだろう。自分は土木工学だから身体を作つた方がよいだろう。それには当然運動サークルに入らなければならない。どうせやるのなら規律あるサークルに入ろう。野球や庭球は技術がいるだろう。サッカーは汗臭くなるからいやだ。卓球やバドミントンは鈍感な自分には不適だろう。柔道や剣道は金もかかりそうだし強いのがいるといやだからやめとこう。他に何かあるかな。ありました。ありました。わが水泳部。あれなら気持もいいし、スタイルも良くなるだろうからあれにしようか。こんなわけで水泳部に入つたのです。

しかし今考えると本当によいサークルに入つたと思う。なぜなら規律があるから、特に六甲合宿の時はそう感じました。六甲合宿つまり大学祭の時の練習です。大学祭とは高校の時の学校祭が高級になつたものぐらいにしか考えておりませんでしたが、どうやらそうではないようです。

今、寮でトイレット委員（本称、生活部委員）をやつております。臭いでしようが寮生が孤独になれる唯一の場所・・・トイレット・・・の為に全力を尽してペーパー配りをします。水泳の方は勿論それ以上のファイトでやります。

37

風呂建設について

J 3
1　マネージャー　横田興二

プールサイドに風呂を設置しようという要望は長い間の懸案でありました

昨年度の凌泳会総会でやっと了解を得たものの、その資金については全くあてがありませんでした。昨シーズンの終りになり部員が話し合つた結果、合宿その他の出費もない事なので十月から積立を開始しようということになり、また不足の場合はダンスパーティ等をやってそれで資金を集めようと一応意見の一致をみました。風呂屋を呼んで見積をしてもらつたところ、約十万円集める目標で部員各自毎月五百円積立てることになり、三月までに八万円ないし、九万円集める予定でした。ところが今年三月になって再び風呂屋に見積をたのんだところ昨年来の物価値上りの影響もあつて、十三万円とのことでした。一応それでも何とかなるものと思い、大学当局へ設置許可を願い出たところ、当局は学内に火災の危険のおそれのある物は設置を許可しない方針とかでがんとしてうけつけませんでした。全く暗礁にのりあげた様な形になつてしまつていましたが、山田先生にお願した処、大学の事務当局に、水泳部のためにわざわざ風呂設置に関する会議を開いてくれる様話して下さいました。

そこで私達も水泳部の情況やらいろいろと説明し、また山田先生の説得大いなるものがあり、大学側も納得してやつとのことで設置の許可が下りました。

風呂桶は、初めは部屋内に置く予定であつたのですが、国有財産の内部に設けるのは、良ろしくないとかで、結局プールサイドに別の建物を造りそこに設置することになりました。従つて最初の予算では足りず、十六万円の見積になりました。三月末までに集まつた八万円では半額にしかならず、資金に窮して先輩のあるかたより五万円借用致し、四月二十八日建設にとりかかりました。五月十日頃約半分完成し、一応風呂をわかしてもいい状態になりましたので、それを使つて本格的トレーニングに入りました。五月二十三日には完成し現在では昨年のシーズン中とほとんど変りない程の練習をやつております。

山田先生には一方ならぬ御やつかいになり部員一同感謝を致しております。またこの返済金については、今年度凌泳会総会で先輩が発起人となつて下さり、資金集めに御尽力下さることになりました。

凌泳会員の皆様には御負担をおかけするつもりではなかつたのですが以上のような事態となり、結局は先輩方に御援助をお願いする事になりましたがどうか御了承下さいます様お願い致します。

河童の歩み

（一九六一・五 ～ 一九六二・五）

◎五月三日　凌泳会総会
◎五月四～七日　姫路合宿
◎六月四日　京阪神三大学対抗戦
◎六月十八日　対京大水球戦（植中杯争奪）（六甲合プール）

例年の如く水球の初戦であり、三商大戦完全優勝をその合言葉とする我水泳部は、まずこの一戦を勝取るべく部員一同一丸となつて試合に臨んだ。試合の前日、池田高校との練習試合で不覚にも逆転敗けしただけに、前年の一ッ橋とのあの一戦が脳裏に浮かび、一抹の不安があつたが、部員のファイトはそれを押しつぶし、京大に先取点を許したことによりかえってその気力が盛上がり、才四クオーターで2－2の同点とした。そして延長戦をやるか否かの協議で京大側からは「もうやめようや」という声もでたが、当然と思われる延長戦に入つた。

延長戦の前半、双方共一ゴールづつ決め、プールサイドは興奮のルツボと化し、先輩の方々は居ても立つてもおれない様子でプールに乗り出すようにしてプレーヤーをあるいは指示し、あるいは激励をとばしておられた。結局後半一ゴールを神大が決め、4－3と植中杯を手中に収めた。この試合でもつとも収獲だつたのは熱戦の末の逆転勝ちということであつた。

神大　4

1	1	1	0	1	0
1	1	1	1	1	1
0	1	0	0	1	1

3　京大

◎六月二四・二五日、関西水球選手権（大阪プール）対

対京大戦の余勢をかつて、打倒立命大、打倒鴨沂高と優勝を目ざして出場。出場校は大学では立命と我水泳部、他は高校勢5校の計7校。初戦は西京高校、名も聞かぬ高校だけに如何なる力量かわからず、サイキョウ（最強）高校なんていつていたが、まず9－4と危気なく勝ち、準決勝へ進出。準決勝では高校水球界の名門鴨沂高校と対戦したが、実力の違いか、高校生らしい敏捷な試合運びのペースに完全に巻込まれ、17－4と大敗を喫した。彼らの敏捷な動きを評して誰かが言つた如く、今、右肩にいたかと思うと次の瞬間には左肩でベッタリ、マークと、そのよくこまめに動くこと　それに彼らはいわゆるゲーム感がすこぶるよく、先へ先へと読んで動いてゆくのには、全く水球はこれでなくちや

と思わせるものがあつた。

続いて優勝の野望は絶たれたものの、3位の地位を確保すべく、折から夕闇のせまつてきたプールで、山城高校とあい対した。実力が伯仲していたためか、双方必死で、試合は白熱し、日頃紳士として自他共に許しているI氏が敵の策略にひつかかり退水を命ぜられて思わず、　の声を発するほどであつた。眼鏡族の多い我チームは折からせまり来る夕闇に実力を発揮できなかつたためか7－5と惜敗し結局四位に終つた。なお決勝戦は立命と鴨　高の間で争われ、鴨沂高の優勝に終つた。（鈴木　剛　記）

◎六月二十七日－七月二日　才一次合宿　（六甲台）

四十人になんなんとする合宿で、時間を効果的に使うためにボロメンと競泳陣の二組にわかれて練習が行われた。連日雨にみまわれ、気温はさがるし、プールはもやでかすみ、最悪のコンディションだつた。それでもすぐ後に伝統の定期戦対市大戦、更に最大の目標である旧三商大戦をひかえていたので、なかなかはげしい合宿となつた。7時にボロメンが起床めしぬきで八百ロング、インタバル、ボロの練習。そのあと8時「ゲラツプ」という人間の声とも思われぬ音に起され、朝食後ボロメンとこうたい。ロング、インタバルには、ことごとく制限タイムがつきリバイバルが課せられた。雨の降りしきる中で、制限タイムをきることができず、いつあげてくれるともわからず、何本もインタバルをいかされる時のつらさ。ついにはストをおこすものもでてきた。それでも、練習が終り夕食のときには、なにごともわすれ、めしを食べることだけに、いきがいをかんじ、おかわりのスピードと量において新記録をだすものもいた。（安茂　記）

◎七月九日　対市大定期戦

快晴にめぐまれた七月の才二日曜、なごやかなふんいきのもとに行われ、質量ともに勝る神大がブレストを除くすべての種目に一位をしめ、ボロにおいても市大をよせつけず、大勝し、才42回大会をかざつた。

対大阪市立大戦戦績

(1)　400mメドレー

井上	萩原	柳本	浅間
順位 (1)	5'10"8		

(2)　400m自由型

浅間	米田	太田
5'22"8	6'04"2	6'09"8
(1)	(3)	(4)

(3)　200m平泳

萩原	丸山	染矢
3'03"8	3'06"5	3'07"2
(2)	(5)	(6)

(4)　100m背泳

井上	岡田	安茂
1'19"0	1'24"5	1'28"7
(1)	(2)	(4)

ボ　ロ

神　大23（　　）0市　大

(5)　100m自由型

高　岡	武　政	荒　井
1'06"5	1'08"1	1'11"7
(1)	(2)	(3)

(6)　800m自由型

浅　間	井　上	平　岡
11'12"2	12'23"6	13'03"2
(1)	(2)	(4)

(7)　200m蝶泳

武　政	窪　田	柳　本
3'01"6	3'11"9	3'21"3
(1)	(3)	(4)

(8)　800mリレー

浅　間	武　政	米　田	高　岡
(1) 10'16"8 (大会新)			

◎七月十九日〜二八日　二次合宿

快晴又快晴。一次合宿で新入部員を悩ませたあの雨とはすっかり縁が切れたらしい。

水は変な色になっていて底が見えない。目を開けて泳いでいると、何だか無の世界に唯一人でいるようで、何ともいえない孤独な、不安な恐怖感をおぼえた。

水の色を評して、呑んべえのHさんのいうには、ペパーミントのあまい緑色、ことさら女の子にもてるTさんの言では、葉緑アストリンゼンの色、散髪好きのXさんは、ヘヤートニックの色。・・・・

〃スイカ〃こんどは、食う順番が問題になり、学年代表が一人ずつ選出されジャンケン。アヽ、勝利の女神は我々にほほえまず！最下位。チクショウジャンケンシタ奴メ。恨ンデモ恨ミキレヌ。

〃六甲ハイツ〃長引くことを予想して、クラッカー、ジュースキャラメルを買入れて、はた目にもアベックらしく見えるように努力しながら、今日は道をかえて下から登ってくることにした。

夕涼み中は疲れを忘れてそよ風にわが学生生活を反省し、下に見える街のネオンをみては社会を考え、空に輝く星屑をみては恋人を思い出し－－－－－

昨日の夕立の後の夜景は全く印象的であつた。この夜景を見て、だれの想いも皆同じ、我が恋人のことであろう。

三日後には、四年生にしてみれば、最後の華を咲かせるか否かの、三商大戦が迫つている。しかし、そこには悲壮感はない。自信過剰でもない。比の雰囲気は貴いものだと思う。

思えば去年の丁度今頃、小平分校のプールのほとりで、一橋大学に敗れてくやし涙に暮れぬ者たれ一人としていなかつたあの時から一年、ようやく借りを返す時がおとずれたのである。

必ずやアポロの神は我々に微笑むだろう。今迄の努力に対して今更過去のことを云々してもはじまらない。やるだけのことはやつた。やるだけのことは我々はやつた、と信じたい。（日誌より）

◎七月三十日　二十九回旧三商大戦

神大水泳部にとつてのメーン・エベントたる旧三商大戦の日が遂に来た。昨日は完全休養にしたためか、全員顔色がさえている。心なしか、四年生の顔は、いつもと違つて、緊張で引締つている様に見える。この大阪小プールは、数日後に日米水上競技を控えて準備中で、飛込台の上から白い雨を降らしてくれたり、コースロープのウキが欠けて斜金が露出していたりで、プールコンデイシションが上々とは、お世辞にも云えない。

悪コンデイションの中でベストを尽せるのが真のスポーツマンだ。今日の神大勢は闘志に満ち満ちている。競泳の部の勝利は下馬評では堅いとされている。愈々試合開始だ。

(1)　４００ｍ混継泳

井上	萩原	柳本	浅間

(1)　5'09"5

(2)　４００ｍ自由型

浅間	高岡
5'20"2	5'31"1
(1)	(2)

(3)　２００ｍ平泳

萩原	染矢
2'57"0	3'05"9
(1) (大会新)	(2)

(4)　１００ｍ背泳

井上	岡田
1'14"6	1'23"6
(1)	(2)

(5) １００m自由型

高　岡	武　政
1'07"0	1'09"2
(2)	(4)

(6) ８００m自由型

浅　間	堤
11'25"6	12'26"1
(1)	(4)

(7) １００m蝶泳

武　政	柳　本
1'15"6	1'19"6
(1)	(2)

(8) ８００m継泳

高　岡	武　政	井　上	浅　間
(1) 10'15"4			

(大会新)

百米自由型を除く各種目に首位を奪うという圧倒的な強さを発揮して、まず競泳の部をものにした。

一息入れる暇もなく、ポロがはじまった。十一名のメンバーの半分は、競泳には使わないで、温存しているのは、神大の層の厚さを示すと共に、この数年間の努力の成果であると言えよう。まず、才一戦の相手は、宿敵一橋である。試合前のラウンド・バスの練習にも熱が入る。球さばきは神大が一枚上手に見受けられるのは、ひいき目だろうか。

試合開始！バスが相手チームのバック陣の間隙をぬつて、パツパツと渡つたかと思う間もなくドーン。まず一点である。植中レフリーの厳しい笛に、一橋側は体制を整えきれずに、才一クウオーターが終る。

競技中、一橋のレフトバック、恐る恐る、「あの・・・今のはどういう反則でしようか」答えて神大のフオワード曰く、「あれか、ありや、初心者のよくやるやつだよ。気にするな、気にするな。」

さらに、才二クウオーター以下で差を大きくしていつて、必死に追いすがつてくる一橋を振切つた。遂に勝つた。残る市大との試合に勝てば、念願の競泳、水球両種目の制覇が完成する。この対一橋の試合は、神戸として最大の出来であつたと云えよう。ハンド、ツウ、ハンドなどまじえて多彩な攻撃を見せたし、又、ディフェンスでは、再三再四敵のチャンスを崩したのだつた。小憩後の市大との試合は全く余裕のある戦いぶりでリードを重ねて、予想どおり楽勝した。

やつたぞ、神戸大。完全優勝なる。

この夜、古林先生、諸先輩を囲んでの祝杯の味は、又格別であつた。（武政　記）

水　球

	神　戸	一　橋
1	6	0
2	6	3
3	5	2
4	2	2
計	19	7

	神　戸	大　阪
1	5	1
2	4	2
3	9	0
4	2	1
計	20	4

◎八月七・八日　関西インターカレッジ（布施市民プール）

新興勢力の抬頭に老舗の屋台骨を揺さぶられる。明後日の国公立戦に、京大、大阪府大に一矢を報いようと、ファイトを出す。

関西インカレ戦績

100m自由型

高岡	荒井	滝沢
1'07"5	1'11"2	1'19"8
(6)		

200m自由型

高岡	平岡	山本
2'33"7	2'35"2	3'06"8
(8)		

400m自由型

浅間	米田	堤
5'30"5	5'52"4	6'02"4
(4)		

800m自由型

浅間	太田	堤
11'38"4	12'45"7	12'48"8
(2)	(8)	

100m蝶泳

柳本	窪田	武政
1'22"8	1'27"3	1'16"2
		(7)

200m蝶泳

窪田	武政
3'16"0	3'05"0
(9)	(8)

400m混継泳

井上	萩原	武政	浅間
(3) 5'04"5			

200m継泳

武政	井上	高岡	浅間
(6) 1'59"3			

800m継泳

高岡	武政	井上	浅間
(3) 10'21"5			

100m平泳

萩原	染矢	藤岡
1'26"0	1'27"9	1'32"0

200m平泳

萩原	染矢	由井
3'06"0	3'08"7	3'30"8
(8)		

100m背泳

井上	岡田	安茂
1'16"9	1'23"5	1'32"8
(3)	(7)	

200m背泳

井上	岡田	安茂
2'46"7	3'02"9	3'28"3
(1)	(6)	

◎八月十日　関西国公立戦（大阪プール）

最後の八継に全国国公立の出場権を賭けて頑張れども、悲運の涙をのむ。

関西国公立戦戦績

100m平泳

萩原	染矢	藤岡
1'27"2	1'26"4	1'33"9

200m平泳

萩原	染矢	由井
3'08"7	3'10"0	3'27"0
	(8)	

100m背泳

井上	岡田	安茂
1'17"9	1'23"8	1'34"1
(1)	(5)	

200m背泳

井上	岡田	前田
2'53"5	3'01"8	3'23"4
(1)	(3)	(9)

100m自由型

高岡	荒井	滝沢
1'09"0	1'12"0	1'18"0
(7)		

200m自由型

高岡
2'38"8
(5)

400m自由型

浅間	米田	堤
5'19"0	6'01"3	6'03"0
(2)		

800m自由型

浅間	米田	太田
11'35"7	12'18"7	12'53"2
(1)	(5)	

100m蝶泳

柳本	窪田	武政
1'22"3	1'27"7	1'16"2
		(4)

200m蝶泳

窪田	武政
3'08"0	3'00"5
(6)	(5)

400m混継泳

井上	萩原	武政	高岡
(2) 5'05"0			

200m継泳

高岡	浅間	荒井	武政
(2) 1'59"5			

800m継泳

高岡	武政	井上	浅間
(2) 10'28"6			

◎八月二十三日〜三十日　長谷合宿

丸山新主将の統率下に二次合宿以来、久しく合宿的雰囲気から遠ざかっていた我々は、三次合宿を長谷で行った。毎年この合宿は、四年生からバトンを受け継いだ三年生を中心に部の融和と団結を堅くするのが目的ではあるが、その練習は一次二次合宿に劣らぬ激しいものであった。まず我々は五十米プールでの合宿だけに、各人思い思いの期待が長谷に向つた。長谷プールの特徴は、山合を流れる犬見川の水を引き入れてたへずその水が換つているために、盛夏にもかかわらず意外に冷くて早速飛び込んだ我々を少なからず失望させたが、五十米プールと云う好環境とこの合宿

を最後に才一線から退かれる四年生の方々の指導はこの合宿を楽しく意義あるものにした。多人数の部員と、プール使用が観光客等のために制約を受けたので、毎度の事ながらここでも時差練習なるものが登場した。山村特有の朝霧が立ち込める中を目をこすり冷い水に飛び込む才一陣の中には後で待っている朝食の事を思って張り切った者もいるはずである。練習方法の新しい面では、従来のダッシュを四人一組にして数チームを作り、各々のチームでリレー形式を取り競せるために一人でも気を抜けない様にした新し方法も採用された。

練習の終った夜は消燈時間までに村で催された盆踊りに出かけたり、又長谷がニジマスの産地であるために毎度のおかずにマスがついたりして楽しい食事をした事などは三次合宿ならでわの雰囲気があった。かくして和気あいあいの内にも厳しさのある練習を続け、丸山主将の見事な宰配のもと部員一同一致団結して最後の試合、近体、兵庫インカレに備えたのである。なほ、四年生の方々も多忙中を大多数参加して下さって暖い指導は、残された三年以下の部員の士気向上をいやが上にも増した事はいうまでもない。（後藤　記）

◎九月四日　近畿地区大学体育大会　（服部緑地プール）

関西学生選手権戦の時と同じく、府大、京大、に惨敗した。

◎九月六日　兵庫インカレ　（六甲台プール）

◎九月九日　月見の宴

三商大戦完全優勝成り、例年にもましての盛会であった。プールサイドで淡き裸電球の光の中、昔話しや今終らんとするシーズンの回顧談に花が咲き、ビールの快き酔いと共になごやかな雰囲気を味わった。御出席の方々は、古林会長、山田部長、溝口卓郎山下虎蔵（高18）、山田常雄（学1）、村上秀造（学7）、岡本忠男（学12）、石井義章、中井三郎（学22）、岡田昌三（新5）岡村司、栄川泰介（新7）、永野一彦、宇賀史郎、太田譲（新8）の諸氏でした。

◎十一月五日　ハイキング

時は秋である。シーズン最大の目標であった「旧三商大戦完全優勝」を成し遂げて、早くも来シーズンに備えての陸上トレーニングを始めていた。毎日の如く、水しぶきのあがっていたプールも、今は冷やかに、澄みきった水をたたえていた。つと、六甲山を見やれば、秋晴れの空に、緑が目にしみる。たゆとう雲が一層の詩情を持たせてくれる。「あゝ！登らんかな六甲へ。」

部員の間からハイキングに行こうという声が起つてきた。それは特に四年生の間からであつたように思う。しかも女の子と一諸に行こうということであつた。このハイキングの世話役が二年生に回つてきた時には、どうなることかと心配したが、水泳部のフアンであられる保健室の槇野さんの口きゝで、たちまち女の子が決定した。かくて、武政は厚生女子専門学院の寄宿舎のメツチエンを、そして私は、学校のタイピストのT嬢グループをキープすることとなつた。

十一月五日（日）快晴。午前十時、阪急御影集合。続々と学院の女の子が降りてくる。予定では五、六名であつたのが九名も参加。さらに嬉しくなつてくることが一つ。学院生付添いのいかつい先生が来られなかつた事である。実は、この先生のお相手を武政か私がせねばなるまいと思つていたからである。T嬢グループ五名。計十四名のあざやかなメツチエンに対し、水泳部チームの陣容は、今は卒業された四年の井上、岡田、萩原、浅間さん等を筆頭に総勢十五名。コースはかねてから考えていた住吉川本流を遡つて一軒茶屋に達するという、相当長距離の登行であるが、比較的に、楽なコースである（筈であつた。）地図に曰く、行程十三キロ、徒歩四時間。健脚者向。

十時過ぎ、メンバー・チエンジを済ませて勇躍、六甲最高峰めざして一行は進む。案内を三年の平岡さんにやつてもらつたが、白鶴美術館を通りすぎて火葬場辺に来て、早くも道に迷つたりして、内心あわてたものであつたが、悪名高い五助谷の難所を無事に通してくれたのはさすがでした。部員は女の子の荷物を持ち、川幅が広い時は、石をおいて渡りをつくり、手をさしのべ、石垣をよじのぼる時は前後から、という具合に、大奮闘。中には、早くも疲れている女性もみられたので、行程の1／3の辺で昼食。既に二時間は経つていたようである。女の子に水筒のジュースを飲ましてあげたり、反対に女の子から弁当を分けてもらつたりの睦じい交歓風景が随所でみられた。記念写真をとつて、再び出発。途中、男女ペアになつて、お互を皆に紹介し合つたりしながら、ピッチをあげてやつと登りつめたら、もう夕陽が沈もうとする頃であつた。予定の倍近くかゝつてしまつた。考えていた頂上での余興も一切流れて、早々に下山の準備にとりかかる。一軒茶屋で一休みした後、有馬に下る健脚者が私を含めて十人。その内学院生が四人。他の者はケーブルで下りた。有馬に下つた者は、大いに愉快な思いをした事であつた。ハイキングの醍醐味を味わえたのではなかろうか。

かくて、飛石伝いに遡行しての、骨のおれるコースではあつた

が、これが、かえつて女性方には、うけたようである。男性方もまた然り。これが縁となつて、最近またまた合ハイの話が女性方からあつたのであるが、今シーズンは日曜練習なので、敢えなくも流れてしまつたとか。

（鈴木正弥記）

◎十二月十四日　ダンスパーティ（松蔭千歳会館）

「おどれ」号令一発、全員立つ。「お客は薬大のメッチェンだ、一人も坐らせておくな」と云う命令であつたので、バカな一同それを忠実に守る、女性の人数や疲れなど気にしないで・・・、大体色気の少いすべり出しだつた。でも男性の方が人数の多いこと、女性が疲れるであろうことに気付いた者も居た。彼等は考えた、始まつて間もないが注意しろ！T君とT君もそうだつた。彼女達が同じことに気付くのに時間はかゝらなかつた。彼女達が次に取つた行動は明白に真理に基いていた。物に動ぜぬ彼等二人とても、多少タジタジとなつたのは事実であつた。とうてい逃れられぬと悟つた彼等は、仕方なしにある二人を選んだ・・・・にもかゝわらず争奪戦は激しく、これに気付かぬ紳士諸君を彼等はうらめしく思つたのであつた。螢の光の曲とともにパーティは終りを告げた。T君とT君は義務として彼女達をネオンに誘つた。他の連中が喫茶店へと消えたとき、とあるニッカバーに二組のアベックが入るのを見た人は居なかつたろうか。彼女達は勝利と恥らいにすでに酔つていたのである。数十分後、四人が外へ出たとき、彼女達は一人で歩けなかつた。しかしT君とT君のあまりにも紳士的な態度に彼女達の期待は見事に裏切られた。その後どうなつたか知らない。おそらく彼女達は家へ送られていつただけだつたと想像する。先日の大学祭園遊会に再度彼女達を見かけたことを作者はつけ加えておこう。

（T生）

部員が楽しみにしていた日がいよいよやつてきた。例年行われるようになつたシーズンオフの水泳部内ダンスパーティだ。去年、各人パートナー獲得に徴りたためか、今年は一括して神戸女子薬大へ申込んだ。五時を過ぎると女性が御登場。彼女らの人相やダンスの技術は問題ではないと思う。問題は我々神大水泳部員を一人でも多く、少しでも正しく理解してもらえばいいのである。印象がよければ次の機会に先を争つて来てくれるかもしれない。しかしこのようなパーティにしろすべてについて、やる時にやるべき事をする敢斗の精神を忘れないでほしい。スポーツマンである以上、のびのびと敢斗してほしい。間もなくシーズンが来る。それまでの短期間を十二分に楽しんでほしい。それによつて人間の巾も広がると思つている。

（日誌より）

◎十二月二十二日　忘年会

忘年会は部員の下宿に集まり、ダベり且つ飲むのである。今年

は二年生のT君とY君が間借している須磨で行われた。両君の話していた如く、聞きしに勝るアバラ屋で、家一軒借りている形ではあるが、戸締りも完全でなく、土足で畳を歩き部屋へ通じるのである。忘年会が終ってのち、通路の座が抜けたそうである。両君は三月にそこを引き払つた。大勢でガヤガヤいうには格好の場所で、夜八時ごろから翌朝六時ごろまでガヤガヤ、夜もすつかり明けたころ酔いもさめて解散した。

◎十一月二十五日　追出しコンパ　（六甲荘）

今年大活躍の十一人の四年生も遂に追出しコンパを催されて、花々しい現役を退く身となつた。我々残された現役組は絶ち切れぬ情を感じながらも、力一杯の拍手で、前途幸あれかしと送り出した。ネーム入りの小さなカップが一人一人に贈られ、早速それで美酒に酔う人もいた。御臨席下さつた方々には、山田部長、植中ボロコーチ、岡本忠男、三宅林、栄川泰介、永野一彦、宇賀史郎、村岡英樹、野田浩志の諸氏でした。

◎三月二十一日　陸上トレーニング開始。

◎四月十五　〜　二十二日　白浜合宿

塩水の混つたプールは美しかつたが、塩と南国の太陽とで部員はたちまち真黒になつた。野田さん（新9）、竹元さん（新10）が見えられた。

◎四月二十九日　凌泳会総会

フロ設置の資金調達、部旗作成につき討論。資金調達については、先輩に大いに働きかけるべきだ。今の水泳部は少々おとなしすぎるという事になつた。と同時に先輩の交流を盛んにする為の何かいいアイデイアを探す事になつた。部旗作成については現役部員の熱意が相当感じられ、藤井先生から寄贈して戴くことになりました。御出席の方々は、藤井先生、田淵五郎（新3）、富田道雄（新4）、村岡英樹、太田譲、杉岡孝一（新8）、萩原武、岡田重義（新10）の諸氏でした。

◎五月三　〜　五日　姫路合宿

今年の水泳部を少しでも強化せんとして、新入部員獲得には、身体検査表を調べたり、姫路の全寮を回つたりした為か、新入部員は多数いる。姫路合宿は六甲と姫路の交流に大いに役立つた。山口（新5）、北村（新7）野田（新9）萩原（新10）の先輩がみえられ、例年の如く雨にみまわれた中を熱心に指導して下さつた。合宿最終日は陸上での交流をと例年の如く、ネオンのきれいな姫路の夜の街へとそれぞれ繰出した。

◎五月十五・二十日　開学記念祭。園遊会

園遊会での模擬店として我水泳部は部員お馴みのホルモン焼とそれにハイボールを売ることになり「河童亭」と銘打つて、におい鼻々しく開店した。水泳部とホルモン焼との結び付きを頭をかしげていぶかる連中が多かつたが、珍らしさのためか大いに繁盛。

売れ残りは我々でコンパをと内心期待する向きもあつたが、追加仕入れ二回に及び、焼き損ないを口にするのが山々だつた。立ちのぼる煙に目が痛くなるほど働いた為、収益は水泳部が最高であつた。確かに準備は大変だつた。プールサイドで延々二時間、あの臭いやつを一つ一つ串にさし、その単調さに終いには皆んな気が立つてしまつて、プールへ何かの用で訪れた三、四人のメッチエンにさえ、「××ゼミの方?そんな奴、今おらん。早々に追い返せ。」などともつたいないことを云つてしまつたりした。ハイボールの方は部員行きつけのバー、ダーリンから二人の女性にアルバイトを願い、「もう一杯ドウ?」などとバー並みの言葉につられてニヤニヤ、これ又大いに売れた。園遊会終了後、お礼と称して、大挙ダーリンへ繰込んだのでありました。

（由井）

昭和37年度試合日定

6月	3日	京阪神三大戦　於大阪プール
6月22〜24日		関西水上選手権　大阪プール
7月	1日	対大市大定期戦　六甲台プール
7月	12日	関西国公立戦　布施プール
7月19.20日		全国々公立戦　未定
7月	29日	三大学戦（旧商大）　一橋小平プール
8月2.4.5.7日		関西水球リーグ戦　北野高校プール
8月	8日	対京大水球定期戦　京大吉田プール
9月1.2	日	関西学生水上選手権　大阪プール
9月	4日	近畿体育大会　未定

〔合　宿〕

春季合宿
4月15日〜22日（於白浜）

姫路合宿
5月3日〜5日（姫路分校）

才一次合宿
7月3日〜10日（六甲台）

才二次合宿
7月13日〜25日（六甲台）

才三次合宿
8月22日〜29日（鴨島）

その(1)

神戸大学水泳部員ベスト・タイム表

(6月2日現在)

種　目	氏名&学年	50m	100m	200m	400m	800m
フリー	11 荒井	32″6	1'10″2	2'45″0	6'01″0	12'20″0
	平岡	34″0	1'14″8	2'51″0	5'59″0	12'28″0
	夏見	33″8	1'13″8	2'48″0	6'31″0	13'58″0
	林	35″0	1'22″0	3'20″0	7'11″0	14'56″0
	12 武政	32″8	1'09″8	2'40″2	5'52″0	12'39″6
	堤	34″0	1″14″5	2'48″0	6'10″4	12'46″2
	後藤	37″0	1'20″2	2'57″3	6'28″0	13'19″0
	鈴木(正)	37″0	1'20″4	3'01″1	6'37″6	13'55″0
	山本	36″5	1'20″2	3'04″0	6'45″0	14'04″0
	滝沢	37	1'25″0	3'25″0	7'20″0	16'14″0
	13 石原	31″3	1'11″2	2'39″8	5'57″0	12'43″0
	丸山	35″5	1'22″4	3'02″8	7'00″1	14'59″0
	横田	36″0	1'23″0	3'04″8	6'43″0	14'14″0
	矢野	36″8	1'26″0	3'18″0	7'08″2	15'16″4
	倉本	37″0	1'37″8	3'40″8	7'51″5	17'50″8
	松川	41″0	1'31″0	3'39″5	8'05″0	
	前田	35″5	1'23″0	3'07″0	6'51″0	14'25″0
	蔵野	45″2	1'55″0	4'22″0	9'22″0	
	14 田中	41″0	1'33″0	3'36″4	8'14″0	19'06″0
	日野	35″5	1'20″8	3'12″4	7'20″0	15'41″2
	角岡	36″0	1'25″0	3'19″0	7'19″0	15'31″0
	上原	41″8	1'36″2	3'53″2	8'35″0	
	木下	37″5	1'24″0	3'19″3	7'26″0	16'07″0
	樋口	37″5	1'21″3	3'07″8	7'07″0	14'49″8
	伊藤	51″8	2'02″4	5'00″0	11'02″3	
	渡辺		1'55″1	4'32″0	10'17″5	
	菅田		1'42″5	3'49″0	8'26″5	18'06″0
	中畑	40″2	1'34″2	3'47″0	8'16″1	17'05″3
	手嶋	43″5	1'41″0	4'15″8		
	井門	57″2	2'22″0	5'32″0		

その(2)

種　目	氏名&学年	50m	100m	200m	400m	800m
ブレスト	11 丸山	41″2	1'28″0	3'11″0	6'48″0	14'09″0
	窪田	42″1	1'30″2	3'12″5	6'59″0	
	藤岡					
	12 竹内	44″2	1'34″6	3'25″0	7'16″6	
	清水	44″0	1'33″8	3'	7'18″4	15'37″0
	北村		1'42″5	3'51″0	8'13″0	17'19″0
	由井	47″1	1'39″0	3'30″8	7'47″3	
	13 山口	41″0	1'30″6	3'20″8	6'57″0	14'39″5
	吉田	42″2	1'37″0	3'37″6	7'53″4	
	14 向井	43″3	1'43″0	3'43″0	7'53″0	16'39″0
	西島	47″0	1'44″2	3'39″0	7'50″0	15'54″0
	阿部	48″5	1'44″2	3'41″0	8'00″3	17'58″2
バック	12 安茂	42″2	1'32″2	3'32″9	7'48″0	16'05″0
	(堤)	41″0	1'27″2	3'20″0	7'15″0	14'33″0
	13 前田	43″2	1'33″2	3'20″2	7'06″0	14'31″0
	14 熊谷	54″2	2'04″6	4'39″2	10'03″0	22'30″0
バタフライ	11(窪田)	42″0	1'29″0	3'23″2		
	(藤岡)					
	14 白石	59″0	2'20″4	5'37″8	13'09″6	
個人メドレー	12(武政)			3'02″0		
	(安茂)			3'16″9		
	14 (小越)			3'16″0		